



や ず さん や ず 矢頭山と矢頭の大杉

津市は、県内第1位の広大な面積を持つ。市の南部を流れる雲出川は、幾つかの支流を合わせ伊勢湾に注ぐが、その一つが波瀬川である。この川は、一志町と美杉町の境に位置する矢頭山（標高731メートル）より発している。

矢頭山は、一志町波瀬地域の人々にとって氏神である、波氏神社が祭られた山である。またかんがい用をはじめ、さまざまに波瀬川の恩恵を受けており、生命を支える水の源で

もある。このため人々は古来よりこの山に対して、敬服の念を抱いた。

一志町の波瀬地域から美杉町下之川へ通じる県道は、室の口を過ぎて山道となる。この道を進むと矢頭峠の手前に、杉木立に囲まれた矢頭中宮公園がある。津市街地からは、車で約1時間の距離に当たる。

矢頭の大杉は、公園内でひととき大きく、幹周り約9メートル、高さ約40メートルあり、樹齢約千年と言われ、昭和28(1953)年に三重県の天然記念物に指定されている。

周辺は、もともと波氏神社の本社があった場所で、大杉を含めた杉木立は、その名残に当たる。周りにはログハウスをはじめ、キャンプ場などが整備され、新緑のころや夏季には、森林浴や登山など、大勢の人たちでにぎわいを見せる。

市街地の騒々しさを離れ、驚くほどの静寂さに包まれた公園内にたたずむ矢頭の大杉。癒しを求めて訪れ

てみてはどうだろうか。

（「広報津」平成18年3月1日号）



矢頭の大杉

